

肺がん検診について

肺がんとは？

日本人の死因の第1位はがん。その中で最も多いのは、肺がんである。

令和5年の統計によると、東京都におけるがん部位別死亡数のうち、肺がんは男性第1位、女性第2位。

肺がんにかかる人は、40歳代後半から増加し、年齢が高くなるほど増加する。

肺がんの死亡数が多い原因として、がんが進行した状態で発見されることが多く、また他の臓器に転移しやすいため、治療成績が上がらないことが挙げられる。

肺がんの危険因子

肺がんの最大の危険因子は、喫煙。

非喫煙者に比べて男性で4.8倍、女性で3.9倍。

受動喫煙の危険性は約1.3倍と言われている。

肺がん検診の内容

質問（問診）・胸部エックス線検査

出典：とうきょう健康ステーションHP

調布市の肺がん検診実施状況

検診体制

○実施方法：申込制で年間10回(11月)に実施・集団検診

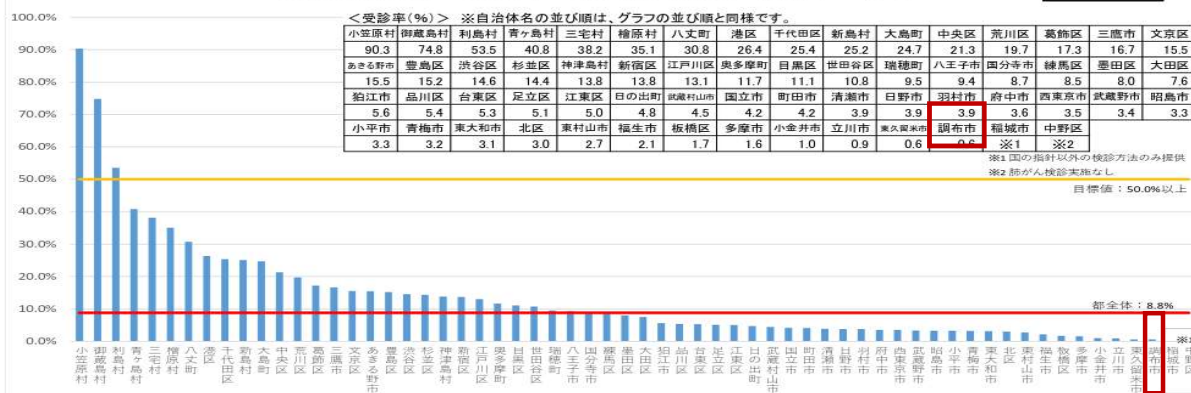
○対象：40歳以上

○内容：胸部エックス線検査、同エックス線写真は二人の医師(うちひとり呼吸器の専門医)で確認。

現状と課題

肺がん検診 受診率（令和5年度、合計）（％）

40～69歳



受診率（％）＝受診者数／（該当年齢の人口×対象人口率） 【対象人口率】特別区：55.1% 市町村：55.6% 島しょ：55.3%
目標値：50%以上（「東京都がん対策推進計画（第二次改定）H30.3改定」より）
なお、次年度からは160%以上（「東京都がん対策推進計画（第三次改定）R6.3改定」より）が目標値となります。

（令和6年度東京都がん検診精度管理評価事業）

課題

- 受診率が低い
- 高齢者の受診者が多い

肺がん検診について

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（肺がん検診抜粋）

対象者 : 40歳以上 特に勧奨をする者 40歳以上 69歳以下

内 容 : 胸部エックス線検査

- ・65歳以上を対象とする胸部エックス線検査は結核検診・特定健診において撮影された肺がん検診に適格な胸部レントゲン写真を用い読影する。
- ・胸部エックス線写真については、2名以上（そのうち1名は十分な経験を有すること）の医師が読影すること。

調布市のがん検診体制のあり方に関する提言書（抜粋）

提言2 受診率の向上とわかりやすく受診しやすいがん検診体制の構築

特に、肺がん検診・乳がん検診・子宮頸がん検診に関しては受診率向上に向けた具体策を検討し、取組を進めていただきたい。

肺がん検診においては、結核検診は撮影した胸部エックス線を利用した検診体制の構築等も検討すべきと考える。

また、国の指針により「特に受診勧奨するもの」とされている年齢の市民に対しては、優先的に受診勧奨、市勧奨を実施すべきである。

今回の協議の論点

提案①

■ 結核検診を活用した肺がん検診の実施

- ・65歳以上は特定健診及び後期高齢者健診と同時に結核検診として胸部エックス線検査を実施している。希望者に同エックス線写真の二重読影（さらに呼吸器の専門医が肺がんの有無を確認）することで肺がん検診を同時実施するのはいかがか。

提案②

■ 国が定める「受診を特に推奨すべき年齢（40～69歳）」の受診率向上に向けた施策

- ・国保の特定健診の活用するのはいかがか。
- ・国保の特定健診対象外（社保）の市民への受診勧奨やクーポン券郵送するのはいかがか（具体的な年齢については次回検討）。
※40歳・45歳等の節目年齢や前年度受診者または数年間未受診者などを対象に

提案③

■ 安定的な検診体制のための自己負担

- ・すべての年代に自己負担を設定するのはいかがか。
（推奨すべき年齢及び肺がん検診と結核検診の区別化を図るための自己負担については次回検討）
※有無や金額の差 等を設定する など